

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 11 月 4 日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300575
法人名	有限会社カリヤ
事業所名	グループホーム愛
所在地	鹿児島県鹿屋市下高隈町5039番地8 (電話) 0994-40-6100
自己評価作成日	令和5年9月6日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者の個々の状況を把握して、できるだけ本人の意向を重んじた介護に取り組んでいる
- ・職員間の協力体制が整っており、長期にわたり勤務できている
- ・家庭的な食事の提供ができており、利用者から好評を得られている
- ・利用者の異常の早期発見に努めており、医療との連携が計れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、平成14年と15年に1ユニットずつ建てられ、東九州自動車道の細山田インターチェンジから近く、窓からは田畑等が眺められ四季を感じることができる自然豊かな環境にある。「馴染みの仲間、地域の仲間と明るく楽しく仲良く輪になって暮らす」というホームの理念とともに、利用者に向き合って思いや希望を受け止め、可能性と能力を生かした生活となるように地域の中で支援するという職員理念も掲げて、職員と利用者が一緒に理念を唱和して意識付けを図り、日々の支援に取り組んでいる。

自治会に加入しており、管理者が自治会の役員であること等もあり、地域の情報を把握しやすい状況にある。現在はコロナ禍のためにこれまでの活動は控えているが、近隣の散歩に出かけたり近所から野菜等の差し入れを頂くなど、地域との繋がりを大切にして楽しく穏やかに過ごせるような支援に努めている。

入居に伴って入居前からのかかりつけ医を受診できるように支援しており、皮膚科・眼科・泌尿器科等の専門診療科の受診には職員と家族が協力して支援している。訪問歯科・訪問看護・薬剤師による薬の配布や指導など、専門職種による健康管理も行われ、相互の支援体制が整って本人や家族の安心に繋がっている。ホームでは看取りも実施しており、職員は研修だけでなく支援の実践を通して看取り介護のあり方について学びを深め、本人や家族の意向に沿った支援となるように取り組んでいる。

A棟

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者の理念、職員の理念はホール内に貼り、共有できるようにしている。職員全員が理念を念頭に、実践に向けて取り組んでいる	法人理念と共有している開設当初からのホームの理念は、玄関とホールに掲示し、昼食・夕食前に利用者と職員が一緒に唱和して意識付けを図っている。職員の理念は目につきやすい厨房カウンター上部の壁に掲示することで、ケアの実践に繋がられるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームは二つの地域の境にあり、経営者も地元であるため両方の班に加入、回覧板を活用し情報収集したり職員が奉仕作業に参加したりする	自治会に加入し、日ごろの回覧板や管理者が自治会の役員であること等により、地域の情報を把握しやすい環境にある。現在は認知症相談窓口・夏祭り・小中学生の職場体験学習やボランティアの受け入れ等の活動は控え、近隣のコスモスや桜の花見を兼ねて散歩に出かけている。近所から野菜等の差し入れを頂き、地域との良好な関係が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	事業所にサポートワーカーがいることで「オレンジのまど」の看板を掲げている。地域の方の介護について、悩みや相談を受け入れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年3月より、対面会議を再開した。状況報告を行い、行政からの指導、委員からの意見など聞き、開催報告書にまとめ、サービスの向上に活かしている	2か月毎の奇数月に市職員・地域代表・家族代表・消防分団長・第三者委員等が出席して会議を開催している。県外在住の家族が多く、出席される代表者は固定化しているため、今後は家族全体に呼びかけ、参加を促していきたいと考えている。議事録はホーム内で閲覧可能となっているが、面会等の機会が少ない家族の場合、推進会議について把握できていない可能性もあるため、会議の結果について個別でお知らせできるように検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市への書類提出時等に担当者とは顔を合わせて、相談事や助言、指導を受けている	市役所本所の窓口に出向くことが多く、介護保険の更新や申請、運営やケアに係る相談、生活保護受給中の利用者の処遇に関する福祉事務所との連携、後見人制度に関する司法書士との連携等、日頃から協力関係を築けるように努めている。市やグループホーム協議会等の研修会にもできるだけ参加し、意見や情報の交換を行ってサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束をしないケアを行っている。やむを得ない場合には、家族への説明、同意を得て記録を残し、2週間に一度のカンファレンスを実施、解除の方向を目指す	ホームと共用型デイサービス共有の「身体拘束適性化のための指針」を作成し、その規定の中でメンバー・時期・記録様式等も定めているが、適正化委員会は開催していない。ホームにおける「身体拘束・高齢者虐待防止委員会」では、年2回話し合いを実施し、身体拘束の現状を確認しながら拘束をしないケアについて認識を深め、ホーム内研修も年2回実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法については、ケア会議や職員会議等で学ぶ機会が持てている。虐待については特に言葉遣いに気をつけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加や報告がなされている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約がなされている。説明は充分になされているが、理解をされているかどうかは疑問である		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を参考にして本人の意向を把握するよう努めている	自分の意見等をうまく伝えられない利用者の場合、日頃の会話や表情等以外にも、本人が何を好んでいるのか家族に確認して情報や協力をもらい、できる限り希望を叶えられるように支援している。家族に対しては2か月毎に利用料請求書と共にお便りを郵送し、意見・要望等があれば職員間で検討し、運営に反映できるように努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回の職員会議や幹部会議などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている	施設長と管理者は週交替で各ユニットの職員と一緒に昼食やお茶を摂りながら歓談し、職員の意見や要望等を聞く機会を設けている。勤務シフトには有給休暇と希望休を組み合わせで取得できるようにしたり、資格取得のための研修への受講料助成や資格手当の支給等を行い、働きやすい職場環境や条件を整える取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい職場にするために、度々職員の意見を聞いたり、会社の方針を話すなどして、双方の条件を整えている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会を逃さず、介護の経験年数や本人の意欲に応じた資格取得ができるように進め、シフトの組み合わせや受講費用の助成も実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区介護事業所連絡会では定期的に研修会が行われており、同業者との交流も兼ねて、職員は可能な範囲で参加している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から聴取できる時は耳を傾け、安心して生活してもらえるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、ケアプラン作成、契約時に家族の要望等に耳を傾けて、不安な思いを軽減できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用は殆どないが、どう過ごしてもらうか？かかりつけ医等の確認は行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の心身の状態をみながら寄り添う介護、相手の立場を思いやるよう努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いも汲みながら、家族との関係性を築いていけていると思う		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が途切れないように配慮しているが機会がない	入居に際しては在宅からが1/3、病院等からが2/3であり、家族や前病院等から情報を得て、本人を取り巻く馴染みの関係について把握するように努めている。友人・家族等との面会はマスクを着用して2m離れて対面で実施し、10分以内で2人までとしている。手紙や電話の取次ぎ、携帯電話の所有、行きつけの美容院利用、家族との墓参り、新聞購読など、これまでの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活がうまくいくように一人一人に気を配っている。言動や行動、生活の様子を観ていく。利用者の中にスタッフも入る		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆ど例はないが、相談や支援は続けたいと考えている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの内容確認等、ケア会議や日々の業務を行う中で実施している	食事に関して1日に何回も「食べていない」と言う利用者、子供に会いたい希望が強い利用者等があり、本人が何を最も希望するのかを大切に支援に努めている。日頃から利用者との会話や生活の中で、本人の思いを感じ取り、可能性と能力が生かせるように考えて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴など基本情報を中心にスタッフに把握してもらっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課計画表を通して、又業務の中で、一人一人の生活状況等観ている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成に関わる際に話し合っている。モニタリングの時にもスタッフより、情報収集する	本人や家族の思いや意向、毎月のケア会議における話し合い、3か月毎のモニタリング等により、状況に合わせた支援について検討し、6か月毎に介護計画を作成している。入退院や心身の状態変化が生じた場合には、計画の見直しや修正を行い、改善に向けて取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、ケース記録、支援経過記録への記録内容から情報を得て見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズへの対応、優先順位、継続か終了か、新しいニーズか等柔軟に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	戸外に出る機会もなく、支援できていない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療、訪問歯科、かかりつけ医への受診、移送サービスを個々に合わせて実施している	本人や家族が希望する入居前からのかかりつけ医を受診できるように支援しており、協力医療機関を主治医とすることは、月2回の訪問診療を受けることができる。皮膚科・眼科・泌尿器科等の専門診療科の受診には職員と家族が協力して付き添い、訪問歯科・訪問看護・薬剤師による薬の配布や指導など、専門職種による健康管理が実施され、相互の協力関係が図られている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身の状態変化時に看護師への報告を行っている。訪問看護師介入時には、バイタルサイン、排尿、便、水分、食事、皮膚の状態等、口頭や記録を通じて報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供を行う。施設と病院で入院期間についても話し合う		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医から家族に話をされるケースが殆どであるが、事業所からも家族に確認を行い、職員間で方針を共有している。	「重度化に関する指針」や「看取り介護の実施定義」を整備し、入居時に説明して同意を得ている。訪問診療を受ける利用者の場合は、診療開始時に「延命に関する同意書」を家族に説明して病院側が作成している。看取りの状態になったら訪問看護を利用することが多く、1日2回は家族が居室で面会可能である。看取り終了後は振り返りのカンファレンスを行い、ステップアップに向けて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成されているが、定期的な訓練はできていない		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練は、地域の消防分団及び中央消防署にお願いをしている。	「防災マニュアル」を作成して火災・風水害・地震に備え、夜間想定を含む避難訓練を、消防署と消防分団が1回ずつ合同で年2回実施している。BCP計画を作成中であり、避難経路の確認や業者による非常用設備点検等を実施し、職員への連絡は自動通報装置で行われている。1つのユニットにまとめて米・レトルト食品等を備蓄し、水はペットボトル6本を各居室に保管している。カセットコンロ・ラジオ・懐中電灯・利用者毎にバスタオルで作った頭巾等を用意し、日頃からの取り組みを重視して実践に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声が大きい等気になるスタッフもいるのでさりげなく注意をしている	職員は入職時に身元保証契約書を取り交わし、「個人情報の使用に係る同意書」も作成して、誇りやプライバシー確保について理解を深めている。言葉遣いは「さん」付けとし、不適切な言葉に対しては注意しながら利用者の尊厳を損ねないような支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に尋ねるなどして、本人の希望に沿うように努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて過ごせるように支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	身だしなみができていない利用者には介助を行い、できる人に対しては、希望に沿い、美容室に行ったり、服を購入したりしている			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好物のおやつを準備したり、嫌いな物、食べづらい物に対しては他の副菜を提供する。一緒に食事の準備や片づけは行っていない	冷蔵庫に入っている食材や差し入れの野菜等を用いて、職員が交替で調理している。行事食・誕生会・リクエストメニューなど、利用者の好みはできるだけ叶えたいと考えて支援している。利用者の心身の状態に合わせて刻み食・ミキサー食等の食事形態にも対応しており、今後は外食できるように検討していきたいと考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて食べる量や水分摂取量を考慮して、摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じた口腔ケアを実施している。訪問歯科や歯科受診を必要時に行う		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人に合った排泄ケアを行っている。排泄パターンを知り実施している。ポータブルトイレを使用中でも便意時にはトイレに移動介助している	水分チェックと合わせて排泄チェック表により利用者毎の排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を支援している。寝たきりのためトイレに行けない方、夜間帯も自らトイレに行く方、ポータブルトイレの方など、心身の状況に応じたケアの方法や排泄用品を使い分けて適切な支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日（日勤帯と夜勤帯）排便チェックを行う。下剤の投与、水分摂取量、牛乳、からいも等の摂取や腹部マッサージを実施する		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	午前中、または午後から「入りたい」と言われたり「浴槽に浸かりたい」「シャワーで良い」等の希望に沿いながら実施している	入浴は少なくとも週2回はできるように支援しており、必要に応じて随時入浴やシャワー浴等も可能である。入浴剤は使用し、石鹸等は共用・個人用共に可能で、ゆず湯等の季節を感じられる支援にも努めている。同性職員による介助も行われており、ストレッチャーを用いての介助は2人態勢で行うなど、安全に配慮して柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドに横になりたい。眠りたい等の希望に沿い支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理を行っている。効用等把握しながら服薬介助を行う。内服薬のみならず外用薬も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて支援している。コミュニケーションが主であるが、その人の関心のあることの話に触れたりする。時々散歩等で気分転換をする		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散髪、髪染めに美容室へ行く時の支援、買い物の支援（受診後等）家族の支援で外食された方もいる	コロナ禍以降、外出の機会が減少しているが、近隣の散歩、周辺の花見、受診、職員と一緒に買い物に行く利用者もいる。ホーム内ではビデオやDVD鑑賞、歌を歌う、踊り、計算、パズル、飾りつけを作る等を行って過ごし、特に外出の希望はない。今後はこれまでのように外出の機会を設けられるように支援していきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者2名所持金あり、時々数えて安心している様子である。他1名は、通販のブラウスを購入、支払った。「お金を払いましょうか？」と言うこともある。その他、事務所で管理し、必要な物の購入をしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話で話すことができたり、利用者からの希望でかけることもある。手紙は来ることがあっても返事をかける利用者はいない		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの明るさ、空調、テレビの音量など注意を払っている。室温、湿度はホーム全体の調整を行っている。展示コーナーの活用 ひな祭り、正月、鯉のぼり等の季節の飾りを飾る	フロアは天窓のために採光は十分で、天井も高く広々としている。生花がテーブルの上に飾られており、居室へ持ち帰る利用者もいる。季節毎の作品は職員と利用者が一緒に作っているが、元保育士の利用者の作品は定評がある。窓は換気のために解放され、利用者がピアノを演奏したり読書する姿もみられ、思い思いにゆっくりと過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごしたり、ホールで過ごす等、個々の生活を重視している。言葉かけを行い、どうしたいか尋ねることも多い		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が落ち着いて過ごせるように、タンスやベッドの配置を変えることもある。（同意を得られる人はそうする）写真など飾る人もいる	フローリングで腰高窓使用の居室には、エアコン・タンス・ベッド・クローゼット・洗面台が備えられ、居室入口の扉を開けておく時には目隠しのために暖簾が掛けられている。利用者はテレビ・写真・ぬいぐるみ・タンス・イス・コップ等を自由に持ち込み、床にマットレスを敷いて生活している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの手すりは設置してあるが使っていない（車椅子やシルバーカー使用の人がいる）		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
		○	4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない